

## 言葉が、子どもたちの世界を広げます

2月17日(水)、「2月生まれの子どもたちの誕生会」を行いました。

その会の中で、かかりの子が誕生日を迎えた子どもたちに順番にインタビューをする場面がありました。

インタビューする子「好きな食べ物は何か？」  
誕生日を迎えた子「パイナップルが入ったヨーグルトです。」

進行の係の先生「先生は、それ、食べたことないから、今度食べてみるね。」

この子は、ただ「ヨーグルト」と答えるのではなく、その前に「パイナップルが入った」という言葉をつけました。そのことによって、聞いていた子どもたちは、一瞬にして黄色いパイナップルが入ったヨーグルトを、頭の中の思い浮かべたのではないのでしょうか。そして先生も「食べたことないから、今度食べてみるね。」と応じてくれました。

使える言葉の数が増えると、表現できる世界がどんどん広がっていきます。そうすると相手と豊かな会話を交わすことができるようになります。その子は、話したことが相手に伝わった喜びを感じたことでしょうか。そして「また話したいな。」と思ったのではないのでしょうか。

こういう普段の何気ない会話が、子どもの頭の中に取り入れられて、その子の言葉の数が増え、考える力が育まれていくといわれています。

「保育の質」は、このような日常のちょっとした場面にあらわれます。

## 「こぐまの会」、素敵な時間でした

2月22日(月)の午後、未就園児とお母さんたちの子育てサークル「こぐまの会」が開かれました。今年度はコロナウイルスの感染拡大もあり、今回ようやく1回目の集まりとなりました。

10名の子どもたちとそのお母さんが参加しました。初めて会う子もいましたが、みんな仲良く好きなおもちゃで遊んでいました。お母さんたちも何となくホッとする時間だったようです。

子どもたちが集まって遊び、そこでお母さんたちが気兼ねなく話し、情報交換をしたり、相談したりできる場が、地域社会の中にあることは、とても素晴らしいことです。

次年度も大事に続けていきたいと思えます。

